

海軍公報

(部内限) 第四七二八號

海軍大臣官房

昭和十九年七月一日(土)

○令 達

達第二〇九號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

昭和十九年六月三十日

海軍大臣

第十六表ヲ別表ノ如ク改ム
第十七表中在監人ノ部ヲ左ノ如ク改ム

在		盛																			
給長白(冬用)	給長白(夏用)	單長白	冬襦袢	夏襦袢	冬袴	夏袴	腹卷	紺足袋	作業服	作業服袴	防務袴甲	雨衣	羽衣	脚絆	略帽	半靴	略靴	靴	手拭	揮	
表白木綿、裏白綿フラス、其ノ他ハ患者綿ヲ除ク	表白木綿、裏白綿フラス、其ノ他ハ患者綿ヲ除ク	表裏共白木綿製、其ノ他ハ給長白(冬用)ニ同シ	白木綿製、其ノ他ハ患者單長白ニ同シ但シ小紐ヲ附ス	白木綿製、其ノ他ハ患者單長白ニ同シ	下士官軍樂兵襦袢ニ同シ	下士官軍樂兵夏襦袢ニ同シ	下士官軍樂兵夏襦袢ニ同シ但シ腰紐ヲ附セズ	下士官軍樂兵夏襦袢ニ同シ但シ腰紐ヲ附セズ	下士官軍樂兵夏襦袢ニ同シ	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右

人		盛																			
女	男	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴
白綿ネル又ハ白木綿製腹巻	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右	同右

海軍公報(部内限) 第四七二八號 昭和十九年七月一日

九一三

第十八表中品目ノ欄「患者各襦袢」ヲ「患者襦袢」ニ、「患者各袴」ヲ「患者各帶」ニ、「患者各帶」ヲ「患者帶」ニ改ム
從前ノ規定ニ依リ調製シタル被服物品ハ當分ノ間之ヲ混用スル
附則

0631

コトヲ得
(別表)

第十六表 (第九十八條ニ依リ在監人ニ貸與スル定數)		準備定數	貸與及準備區別
品目	每二人		
給長白衣(冬用)	三 個		
給長白衣	二 個		
單長白衣	二 個		
○冬 襦 袢	二 個		
○夏 襦 袢	二 個		
○冬 袴 下	二 個		
○夏 袴 下	二 個		
腹 卷	一 個		
紺 足 袋	一 個		
甲 號 毛 布	五 個		
並 敷 敷	一 個		
×作 業 服 衣	二 個		
×作 業 服 袴	二 個		
×防 暑 袴 甲	二 個		
×雨 衣	三 人ニ付 個		

一、實際必要ノ數ヲ準備シ海軍監獄令第十五條第一號乃至第七號ノ在監人竝ニ收容中ノ其ノ他ノ在監人ニ貸與ス

二、×印ヲ附シタルモノハ作業(訓練)ヲ課スル場合必要ニ應ジ其ノ全部又ハ一部ヲ貸與ス

三、○印ヲ附シタルモノハ作業(訓練)ヲ課スルモノニ限リ貸與數各一個ヲ增加スルコトヲ得

四、婦女ニハ腰卷ヲ貸與スルトキハ袴下類ヲ貸與セズ

品名	番 號 票 縫 著 位 置	考 備	
		防 暑 袴 甲ハ 滯 暑 期 間ニ 於 ケル 日 中 作 業 時ニ 限 リ 紺 足 袋 ハ 防 寒 上 必 要 ノ ト キニ 限 リ 貸 與 ス	
×脚 絆		組	一
×胸 衣		個	一
×略 帽		個	一
×半 靴		組	一
略 靴		組	一
×靴 下		組	三
手 拭		個	一
禪 女		個	二
禪 男		個	四

第十八表ノ二 (第百二條ノ二ニ依リ在監人被服物品ニ) 番號票縫著位置

給長白衣(冬用) 左襟、襟下二一刺ノ位置

給長白衣 左襟、襟下二一刺ノ位置

單長白衣 左胸部隠ノ位置

作業服衣 左胸部隠ノ位置

0632

作業服袴	左腰部中央、上端ヨリ九種ノ位置
防暑服袴甲	
冬 袴	左胸部中央
夏 袴	
備考	番號票ハ横六種縦九種ノ白布トス

達第二一〇號
海兵團練習部規則中左ノ通改正ス
昭和十九年六月三十日

海軍大臣

第二條第一號中「濱名海兵團練習部」ヲ下ニ「大湊海兵團練習部」ヲ、「大竹海兵團練習部」ノ下ニ「安浦海兵團練習部、大阪海兵團練習部」ヲ加ヘ、「舞鶴海兵團練習部」ヲ「及舞鶴海兵團練習部及平海兵團練習部」ニ改ム

附則

本達ハ昭和十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

官房教機密第二七九號

昭和十九年九月末採用スベキ見習尉官ノ見習尉官及同出身各料中少尉實務練習規則ニ依ル第一期實務練習ハ左表ニ依リ之ヲ實施ス

昭和十九年六月二十八日

海軍公報(部内限)第四七二八號 昭和十九年七月二日

見習尉官	期實	四月	實習場所	海軍醫學校(假)	海軍經理學校	濱名海兵團	横須賀海軍砲術學校
軍醫、藥劑及齒科醫官	記			海軍醫學校(假)	濱名海兵團	横須賀海軍砲術學校	
主計科							
技術科							
見習尉官							
法務科							
見習尉官							
見習尉官							

海軍大臣

官房經機密第九〇六號

大東亞戰爭中海軍工作廳ニ保有スル機械ヲ民間工場又ハ事業場ニ貸與スルコトヲ要スル場合ハ別ニ規定アルモノノ外海軍艦政本部長又ハ海軍航空本部長之ヲ處理スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ貸與シタルモノニ付テハ毎年十二月末ニ於テ其ノ現況ヲ報告スルモノトス
昭和十九年六月二十九日

海軍大臣

官房人機密第一四三〇號

本年官房人機密第二七九號第一號(表)中五月十五日入團徵兵ノ部暗號術ノ上欄「防府海軍通信學校」ヲ「防府海軍通信學校但賀海軍通信學」ニ、九月二十五日入團徵兵ノ部暗號術ノ上欄「防校豐川分校」ニ、九月二十五日入團徵兵ノ部暗號術ノ上欄「防府海軍通信學校」ヲ「横須賀海軍通信學校豐川分校」ニ改ム

九一五

0633

昭和十九年六月三十日

海軍大臣

(昭和十九年二月四日本欄参照)

○通牒

官房機密第一三四號ノ九

昭和十九年七月一日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セララルモノヲ除キ別冊暗號圖書
現狀表第三一號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミ配付ス)

兵備三機密第五四三號

昭和十九年六月二十日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

飛行機移動ニ關スル氣象通報ノ件通牒

昭和十八年五月兵備三機密第一九二號(同年六月八日附部内限
公報)ニ依ル首題ノ件中左記ノ通改正來ル七月一日ヨリ實施ノ
コトニ定メラレ候

記

様式及暗號ノ項

「一〇三電報式 海軍氣象内暗號書」ヲ使用

○雜 款

○司令驅逐艦變更

第十七驅逐隊司令ハ五月二十四日司令驅逐艦ヲ磯風ニ變更セリ

海軍中尉勝目邦義、海軍少尉花淵 茂六月十六日飛行訓
練中殉職、七月十日第二鈴鹿航空基地ニ於テ佛式ニ依リ
海軍葬儀執行

大東亞戰爭戰歿者故海軍少將清水太郎外諸勇士ノ合同海
軍葬儀ヲ來七月十六日(日)午前九時吳軍港第一練兵場
(雨天ノ場合ハ櫻松館)ニ於テ佛式ニ依リ執行

○本日普通公報發行セズ

0634

海軍公報 (部内限) 第四七二九號

昭和十九年七月三日(月)
海軍大臣官房

○訓示

官房軍第八三八號

部内一般ニ訓示

大東亞戰爭勃發以來朝鮮及臺灣同胞ノ皇國臣民タル自覺頓ニ昂揚セラレ義勇奉公ノ熱情澎湃トシテ興起シ夔ニ朝鮮及臺灣ニ海軍特別志願兵制竝ニ徵兵制ヲ實施セラレ近ク第一期特別志願兵ハ基礎教育ヲ修了シテ前線其ノ他各部ニ配員セラルルコトトナレリ

惟フニ朝鮮及臺灣ニ於ケル兵制ノ施行ハ我建軍上ノ劃期的改正ニシテ八紘一字一視同仁ノ皇謨ニ基クモノニ外ナラズ 聖慮ノ宏大無邊ナル寔ニ感激ニ堪エズ

同地出身兵タル者宜シク皇國軍人ノ本質ニ徹シ思フ帝國海軍軍人タルノ榮譽ト責務ノ重大ナルコトニ致シ日夜 聖旨ヲ奉戴シテ本分完遂ニ遺憾ナキヲ期セザルベカラズ

又此等志願兵ヲ配セラレタル各部ハ固ヨリ部内一般ニ於テハ一視同仁ノ 聖慮ヲ體シ特ニ融和ノ徹底ニ意ヲ用ヒ骨肉ノ情ヲ以テ懇切ナル指導誘掖ニ當リ速ニ傳統ノ美風ニ醇化セシメ以テ刻下ノ戦力増強ニ一段ノ寄與ヲ爲サシムルト共ニ愈々帝國海軍ノ光輝ヲ宣揚センコトヲ期スベシ

昭和十九年七月一日

海軍大臣

○令達

達第二二二號

昭和十六年達第二九十二號海軍旗章令第十二條ノ場合ニ於ケル旗章掲揚ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和十九年七月一日

海軍大臣

第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二ノ二 戦時、事變、演習等ニ際シ司令長官又ハ司令官ハ時宜ニ依リ其ノ將旗又ハ代將旗ヲ一時掲揚セザルコトヲ得

達第二二二號

横須賀海軍工廠ニ於テ建造中ノ軍艦一隻ニ左ノ通命名セラル

昭和十九年七月一日

海軍大臣

軍艦 信濃(シナノ)

官房軍第八七二號

雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

海軍大臣

海軍公報(部内限) 第四七二九號 昭和十九年七月三日

九二七

0635

公稱番號	船種	舊所屬	新所屬	別定數	記事
第一二六三號	飛行機救難船 (三百艘)	父島海軍航空隊	高知海軍航空隊	定數	
第四六三號	曳船兼交通船 (百五十艘)	橫須賀海軍航空隊	橫須賀海軍航空隊 隊洲崎分遣隊	同	
自第八號雷艇 至第三號雷艇	内(魚雷艇型) (六隻)	海軍水雷學校	臨時魚雷艇訓練所	臨時	
第一二五〇號	内(火艇) (十二米)	宇佐海軍航空隊	小松島海軍航空隊	定數	
第一四三三號	同	德島海軍航空隊	松山海軍航空隊	同	
第一五一九號	カッター (九米)	鹿兒島海軍航空隊	垂水海軍航空隊	同	
第一五二〇號	同	同	同	同	
第一九八四號	同	同	北浦海軍航空隊	同	
第一九八五號	同	同	同	同	
第一九八六號	同	同	館山海軍航空隊	同	
第一九八七號	同	同	同	同	
第一九八八號	同	同	同	同	
第一九八九號	同	同	同	同	
第八一三號	内(火ランヂ) (十二米)	高雄海軍港務部	宇佐海軍航空隊	同	
第二三三〇號	水船 (五十噸積)	馬公方面特 別根據地隊 司令供用	高雄海軍運輸部	臨時 附屬	

官房艦機密第二五號ノ七一
昭和十九年七月一日

各鎮守府司令長官殿
大湊、高雄、鎮海、大阪警備府司令長官殿
兵器簿ノ件通達
各艦船兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス
記

區分	品名	數稱	改正事項	摘	要
削除	階式拳銃	挺			
削除	一四式拳銃	挺			
			定數全部削除		戰艦、巡洋艦、航空母艦、水上機母艦魚雷艇ヲ除ク(拳銃用紙取扱)

官房艦機密第二五號
昭和十六年官房第四三四四號中「水路部」ノ下ニ「運輸部」ヲ加フ
昭和十九年七月一日
海軍大臣

參照 昭和十六年八月十四日海軍公報(部内限)官房第四三四四號
官房第七一〇號
昭和十三年官房第四一四三號ハ之ヲ廢止ス
昭和十九年七月二日
海軍大臣

參照 昭和十三年官房第四一四三號ハ服役延期中ノ下士官兵ニ對シテハ任用進級試験ヲ行ハザルノ件ナリ(諸例則卷二、一九八ノ一頁參照)

0636

○通 牒

官房教第五三號

昭和十九年七月一日

海軍次官事務取扱

關係各廳長殿

朝鮮及臺灣出身兵ノ取扱指導ニ關スル件申進
 新兵教育ヲ終了シ前線ノ部隊共ノ他各部ニ配員セラルベキ第一期海軍特別志願兵ハ多數ノ朝鮮、臺灣青少年中ヨリ選抜セラレ海軍兵志願者訓練所ニ於テ軍隊教育ヲ受ケシムルニ必要ナル豫備教育ヲ六月間更ニ海軍團ニ於テ新兵教育ヲ三月間實施セラレタルモノナルヲ以テ海軍兵トシテ必要ナル基礎的素養ヲ與ヘ得タルモノト認ムルモ海軍兵志願者訓練所ハ七月末日ヲ以テ廢止セラレ、~~後採用者ハ豫備教育ヲ實施スルコトナク~~直接海軍團ニ入團セシムルコト爲リ且其ノ員數モ逐次増加ノ豫定ニシテ更ニ昭和二十年初頭以降先ヅ朝鮮出身徵兵ヲモ採用入團セシメラルルコト爲ルニ付朝鮮及臺灣出身兵ヲ配員セラレ又ハ其ノ教育ヲ擔當スル各部ニ於テハ左記留意ノ上之ガ取扱指導ニ關シ遺憾ナキヲ期セラレ度

記

一 教育指導ノ基調ヲ皇民及皇軍意識ノ透徹ニ置クヲ要ス之ガ爲確固タル日本精神ヲ把握セシムルト共ニ軍人精神及軍紀ノ眞體ヲ体得セシメ以テ帝國軍人タルノ資質ノ完成ニ全幅ノ努力ヲ敏スコト

海軍公報(部内限) 第四七二九號 昭和十九年七月三日

二 近時朝鮮及臺灣ニ於テハ皇民化ノ實大イニ揚レリト雖モ夫々永年ニ亙ル歴史ヲ有シ特殊ノ政情ト文化ノ下ニ今日ニ至レルヲ以テ風俗習慣等ハ固ヨリ思想性格ニ於テモ内地出身兵ト異ナルモノアルハ誠ニ已ムヲ得ザルモノアリ之ガ指導ニ任ズル者ハ固ヨリ下級幹部ヲシテ右ノ實情ヲ正シク理解セシムルト共ニ之ニ提ハルルコトナク且部下ノ個性ト身上トヲ明カニシ其ノ資質不完全ナル者ニ對シテハ至誠ト同情ノ念トヲ以テ懇切公正ニ教導訓化シ苟モ皇民及皇國軍人タルノ感激ト誇トヲ失ハシムルガ如キコトナキコト

三 艦船部隊ニ於ケル居住ハ從來ノ生活様式ニ著シキ改變アルノミナラズ風習ノ異ナル爲或ハ國語能力尙充分ナラザル等ノ爲日常内地出身兵トノ間ニ動モスレバ誤解ヲ醸シ或ハ感情ノ疎隔ヲ來ス虞ナシトセズ之ガ爲朝鮮及臺灣出身兵ハ當分ノ間大部ヲ陸上部隊ニ、一部ヲ附屬艦艇等ニ分散配員シテ夫々適當ナル直接指導者ヲ附シ常住之ガ指導教育ニ任ゼシムルト共ニ内地出身同僚間トノ接觸ヲ密ニシテ相互ノ理解ヲ深メシメ自ラ帝國海軍ノ傳統ノ美風ニ醇化セシムル如ク指導スルコト

官房艦機密第四一三三號

昭和十九年七月一日

海軍省 副官

關係各廳長殿

戰闘ニ因ル兵器ノ亡失報告ニ關スル件申進

九一九

0637

船舶沈没等ノ爲搭載兵器全部ヲ亡シタル場合ハ其ノ附屬品補用品等ノ品名ノ列記ヲ省略シ主體兵器名ノミニ依リ報告ノコトニ定メラレ候
 道テ左記了知相成度

一 記事欄ハ高度ノ機密ニ屬スル事項ヲ省略シ可及的簡單ニ記載ノコト
 二 艦船、特設艦船ニ在リテハ別途離離權處分ヲ訓令セラルルヲ以テ該報告ヲ爲スニ及バズ
 （昭和十七年官房機密第二四四九號關聯）

海人第二二號ノ六八

昭和十九年六月三十日

海軍省人事局

關係各廳御中

人事異動電報ノ發令日附ニ關スル件通牒

自今人事異動電報ニ依ル發令日附ハ特記スルモノノ外電番號ノ日附ニ依ルモノト了知相成度

軍需二機密第六四七號

昭和十九年七月三日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

航空燃料使用區分ノ件通牒
 臨時海軍規格ニ依ル航空燃料ノ使用區分ヲ左記ノ通定メラレ候

燃料名稱		使用スベキ發動機		記事
航空七〇揮發油 甲・丙	神風發動機	二型	二型	
	初風發動機	三型	一型	
航空八〇揮發油 甲・丙	天風發動機	一〇型	一〇型	
	セミ發動機	一一型	一一型	
航空八五揮發油 甲・丙	天風發動機	二〇型	二〇型	
	九一式五百馬力發動機	二二型	二二型	
航空八七揮發油 甲・乙	光發動機	二一型	二一型	常用出力以下ニ於ケル燃料使用區分標準次ノ如ク
	金星發動機	四〇型	四〇型	
	瑞星發動機	四二型	四二型	一、吸入壓力（土） 〇迄 航空八五揮發油 甲
	明星發動機	二型	二型	
	天風發動機	三〇型	三〇型	二、吸入壓力（-） 一〇〇迄

航空九一揮發油 甲乙										
金星發動機	六〇型	常用出力以下ニ於ケル燃料使用區分標準次ノ如ク	金星發動機	二〇型	常用出力以下ニ於ケル燃料使用區分標準次ノ如ク	金星發動機	五〇型	常用出力以下ニ於ケル燃料使用區分標準次ノ如ク	金星發動機	二〇型
火星發動機	二四型	吸入壓力(+)	火星發動機	二〇型	吸入壓力(+)	火星發動機	二〇型	吸入壓力(+)	火星發動機	二〇型
榮發動機	二〇型	吸入壓力(+)	榮發動機	二〇型	吸入壓力(+)	榮發動機	二〇型	吸入壓力(+)	榮發動機	二〇型
警發動機	二〇型	吸入壓力(+)	警發動機	二〇型	吸入壓力(+)	警發動機	二〇型	吸入壓力(+)	警發動機	二〇型
アツタ發動機	二〇型	吸入壓力(+)	アツタ發動機	二〇型	吸入壓力(+)	アツタ發動機	二〇型	吸入壓力(+)	アツタ發動機	二〇型
アツタ發動機	三〇型	吸入壓力(+)	アツタ發動機	三〇型	吸入壓力(+)	アツタ發動機	三〇型	吸入壓力(+)	アツタ發動機	三〇型
腹發動機	一〇型	吸入壓力(+)	腹發動機	一〇型	吸入壓力(+)	腹發動機	一〇型	吸入壓力(+)	腹發動機	一〇型
金星發動機	六〇型	吸入壓力(+)	金星發動機	六〇型	吸入壓力(+)	金星發動機	六〇型	吸入壓力(+)	金星發動機	六〇型
金星發動機	六〇型	吸入壓力(+)	金星發動機	六〇型	吸入壓力(+)	金星發動機	六〇型	吸入壓力(+)	金星發動機	六〇型
金星發動機	六〇型	吸入壓力(+)	金星發動機	六〇型	吸入壓力(+)	金星發動機	六〇型	吸入壓力(+)	金星發動機	六〇型

軍需二機密第六四八號
昭和十九年七月三日

海軍省軍需局長
海軍航空本部長

關係各廳長殿
一號「アルコール」混合航空揮發油ノ請求及供給ニ關スル件申進

海軍公報(部内限)第四七二九號 昭和十九年七月三日

航空揮發油一號「アルコール」ヲ混合使用ノコトナリ差當リ實用實驗ヲ終了セル天風一〇型同二〇型及壽二型改一發動機等ニ使用ノ空八五揮以下ノ航空揮發油ニハ五〇「パーセント」混用セシメラルル處同燃料使用發動機ノ限定シテ燃料供給限ニ於ケル在庫量等ノ關係上混合燃料(丙)ノ供給ハ當分必ズシモ円滑ナラザルヤニ豫想セラルルヲ以テ燃料ノ請求及供給等ハ差當リ左記ニ依ラレ度

追テ丙燃料ヲ使用スベキ場合空八五揮以下ノ低級燃料入手不可能ニシテ已ムヲ得ズ高級揮發油ヲ使用スル場合ニ於テモ一號「アルコール」ノ混用ハ差支ナキ義ト承知アリ度

記

- 請求廳ハ燃料種別(甲、丙等)ヲ明瞭ナラシムルコト
- 供給廳ニ丙燃料在庫無キ場合ハ混合ノ上供給スルヲ建前トスルモ狀況ニ依リ甲(乙)燃料及一號「アルコール」ヲ別個ニ供給スルコトアリ

此ノ場合請求廳ニ於テ混合使用スルモノトス

艦本機密第一號ノ一〇七三六
昭和十九年七月三日

海軍省軍需局長
海軍航空本部長

關係各廳長殿
七耗七及十三耗機銃燒夷彈藥包ニ型取扱ニ關スル件照會

0639

首題彈藥包ハ之ニ使用スル爆藥ノ性質上攝氏(四十五度)三月ノ貯蔵ニテ若干鋭感トナル實驗成績ヲ得タルニ付テハ努メテ高温ノ個所ニ置カザル様取計相成度

○雜 款

○感狀授與通知
自昭和十七年八月十五日 期間特設水上機母艦讚岐丸ニ勤務セ至同年十一月三十日 記
ル者ニ對シ左記ノ通歴履記註相成度

年月日	事 記
一六、九、五	昭和十七年八月下旬外南洋部隊水上航空部隊ニ屬シ「シヨウトランド」島ニ進出「ワダカカナル」島方面作戰ニ參加シタル功績ニ對シ聯合艦隊司令長官ヨリ部隊感狀授與セラル

(特設運送艦讚岐丸)

合同海軍葬儀執行

期 日 及 時 刻	大東亞戰爭 戰歿者	喪 葬 管 理 者	場 所	記 事
七月二十七日 午後一時	故海軍中尉平尾淑人 外諸勇士	高知地方海軍人事部長	城東國民學校	佛式
七月三十日 午前十時	故海軍中尉權左長藏 外諸勇士	金澤地方海軍人事部長	金澤東本願寺別院	同

○本日普通公報發行セズ

○開校

海軍航海學校分校ハ七月一日茨城縣稻敷郡阿見村大室臺ニ之ヲ開校シ氣象關係ノ教育ヲ開始セリ

氣象關係書類其ノ他關係書類ハ直接分校宛送付相成度

追テ彙ニ呼稱ノ海軍航海學校霞ヶ浦分校ハ海軍航海學校分校ト改メラレタルニ付爲念

○旅行者順路

常磐線土浦驛下車 同驛阿見村間陸路七・六軒(乘合自動車便アリ)

(海軍航海學校分校)

○電話設置

電話岡山(七三〇〇) 部員室
電話岡山(七四一〇) 庶務室(軍事普及、軍人援護獻金室共用)
(岡山地方海軍人事部)

海軍公報

(部内限) 第四七三〇號

海軍大臣官房

昭和十九年七月四日(火)

○令 達

達第二一三號

海軍囑託者報酬増額取扱規則中左ノ通改正ス

昭和十九年七月一日

海軍大臣 臣

第六條中「海軍文官進級俸取扱規則別表第二號ノ様式ニ準ジ報酬増額具申書ヲ調製シ」ヲ「別紙第一様式ニ依リ」ニ改ム
第八條第二項中「其ノ具申書」ヲ「報酬増額具申書又ハ報酬増額セシムベカラザル者ノ名簿」ニ、「具申書寫」ヲ「寫」ニ改メ
同條ニ第一項トシテ左ノ一項ヲ加フ
所屬長官又ハ所轄長ハ報酬増額ノ停年ヲ有スルモ之ヲ具申セザル囑託者ノ名簿ヲ前二條ノ規定ニ準ジ別紙第二様式ニ依リ調製シ之ヲ海軍大臣又ハ所屬長官ニ報告スベシ

(別紙添)

(諸例則卷二、三三〇ノ二ノ五参照)

官房人機密第一四四三號

昭和十六年官房機密第二七五三號ハ之ヲ廢止ス

昭和十九年七月三日

海軍大臣 臣



海軍公報(部内限) 第四七三〇號 昭和十九年七月四日

○通 牒

海人三第二號ノ六一

昭和十九年七月三日

海軍省人事局長

關係所轄長殿

海軍部外官廳ノ職員ニ補セラレタル者ノ考課表調製ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ別紙(官房人第六九五號)ノ通海軍次官事務取扱ヨリ關係ノ向ニ照會アリタルニ付部下職員ニシテ部外官廳ノ職員兼任ノモノニ對スル兼務廳ノ考課資料ニ關シテハ同號ニ依リ處理スル義ト了知相成度

(別紙)

官房人第六九五號

昭和十九年六月二十六日

海軍次官事務取扱

九二三

0641

内務次官、農商務次官、大東亞次官、情報局長、軍需次官、技術院次長、運輸通信次官、總力戰研究所長 殿

海軍部外ノ官廳ニ配屬セシメラレタル奏任官
以下ノ考課表資料ニ關スル件照會

現役海軍武官又ハ海軍文官ニシテ貴省(廳)職員又ハ貴省部内ノ職員ニ補セラレタルモノニ對スル考課表資料左記ニ依リ調製送付方取計ヲ得度
追テ本件貴省(廳)部内關係ノ向ニ示達方相煩度

記

一 考課表資料調製期日

(イ) 定期 毎年七月一日

(ロ) 臨時時 必要ト認ムル都度

二 考課表資料ハ被考課官(奏任官以下ニ限ル)ノ直屬上官之ヲ調製シ所屬ノ部、局長等之ヲ査閱シタル上專任ノ職員ニ對スル考課表資料ハ海軍省人事局長ニ、兼任ノ職員ニ對スル考課表資料ハ海軍ノ本務廳ニ於ケル考課表調製官ニ送付ス

三 海軍省人事局長又ハ海軍ノ本務廳ニ於ケル考課表調製官ハ前號ニ依リ考課表資料ノ送付ヲ受ケタルトキハ必要ニ應ジ所見ヲ附記(兼務廳ニ於テ記註シアル用紙ヲ其ノ儘用フ)シタル上順序ヲ經テ之ヲ進達スルモノトス

四 海軍考課表資料記註用紙、記註要領及海軍ノ本務廳ニ於ケ

ル考課表調製官ノ職名ハ海軍省人事局長(兼務者ニ在リテハ本務廳長)ヨリ直接貴省(廳)又ハ貴省部内關係ノ考課表調製官ニ送付ス

〇 雜 款

〇 潜水艦基地隊開隊
第三十潜水艦基地隊ヲ四月一日パラオ、アラカベサン島ニ開隊セリ

〇 事務所撤去
日振艦裝具事務所ハ六月二十七日之ヲ撤去セリ

〇 正誤
達第百八十四號附圖(例)中「臺地帶五・〇」
「類」ノ、七月一日附海軍公報(部内限)令達關九一五頁上段達
第二一〇號本文中「舞鶴海兵團練習部」ハ「及舞鶴海兵團練習部」ノ孰モ誤

達第二二三號別紙第一様式 (用紙美濃十三行野紙)

(昭和十九年七月四日海軍公報(部内限))

昭和 年 月 日

所 轄 長

職印

海軍大臣 (所屬長官) 殿

囑託者報酬増額ノ件具申

部内限待遇

一	一八四一	一〇〇〇	〇一五	一、六五〇圓	一、四七〇圓	支那方面艦隊 囑託(上海武官府)	支那語通譯	何 (當三十五年)
順拔 順序	現報 酬ヲ 受ケ タル 日	同上 以來 ノ 日數 (勤務 日數)	現報 酬中 ノ 賞 日數 及 缺 勤	増額 セシ ム ベ キ 報 酬 額	現報 酬額	囑 託 名 (勤務 廳)	委 嘱 業 務	氏 名 及 年 齡

備考

- 一 部内限待遇別ニ調製スルモノトス
- 二 抜擢順序ハ各報酬額毎ニ之ヲ附スルモノトス
- 三 年齢ハ數ヘ年ヲ記入スルモノトス

0643

達第二二三號別紙第二様式 (用紙美濃十三行罫紙)

(昭和十九年七月四日海軍公報(部内限))

昭和 年 月 日

所 轄 長

職印

海軍大臣(所屬長官) 殿

囑託者報酬増額不適者ノ件報告

部内限待遇

現報酬	現報酬ヲ受ケタル年月日	同上以來ノ経過日數(勤務日數)	不増額ノ事由	囑託(勤務總名)	委嘱業務	氏名
一、六五〇圓	一八一四一一	〇一〇〇一〇	勤務成績不良	第二南遣艦隊齒科治療業務囑託(百二病院)	齒科	何 某

備考

本報告ハ部内限待遇別ニ之ヲ調製スルモノトス

0644

海軍公報

(部内限) 第四七三二號

昭和十九年七月五日(水)

海軍大臣官房

○令 達

官房需機密第二三二號

當分ノ間各海軍學校ニ於テ左記經營需品ヲ要スル場合ハ最寄海軍需部ヨリ繰替供給ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ數量等ニ付テハ海軍省軍需局長ヲシテ關係海軍需部長ニ通牒セシム
之ヲ取扱ニ關シテハ昭和十八年官房經第一一七五號ヲ準用スルモノトス
補填費目ハ臨時軍事費、臨時軍事費、教育諸費、備品消耗品費トス

昭和十九年七月三日

海軍大臣

記

銃劍術要具及同用消耗品
劍道要具及同用消耗品

官房人第七一八號

表彰内規中左ノ通改正ス

昭和十九年七月四日

海軍大臣

第五號表彰法(イ)申、木杯又ハ賞金「ヲ」又ハ木杯「ニ」改メ同號

海軍公報(部内限) 第四七三一號 昭和十九年七月五日

第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

彼勳内則第十七條ノ規定ニ依リ敘勳セラレタル者ニ對シテハ表彰狀及金杯又ハ銀杯ヲ併セ授與スルヲ例トス
(諸例則卷二、四八〇ノ三頁參照)

官房人第七一九號

昭和十九年官房人第二二三號中「戰死、戰傷死又ハ戰病死シ」ヲ「傷痕、疾病ノ爲危篤ニ陥リ」ニ改メ「於テハ」ノ下ニ「自企的傷痕、疾病ニ依ルモノヲ除クノ外」ヲ加フ

昭和十九年七月四日

海軍大臣

昭和十九年官房人第二二三號ハ大東亞戰爭中海軍兵ニシテ戰死、戰傷死又ハ戰病死シタルモノヲ一階級上級ノ職階ニ特殊進級セシムル場合ニ於テハ所屬長官ノ認許ヲ要セザルノ件ナリ(諸例則卷二、一九二ノ一頁參照)

官房需第二三二號

昭和十九年官房需第一四一號中左ノ通改正ス

昭和十九年七月四日

海軍大臣

第一號(イ)項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

九二五

0645

(イ)ノ二、第七表ノ二、第八表、第八表ノ二及第九表ノ規定ニ依リ下士官、兵又ハ豫備員候補者ニ交付スル浦團覆ハ之ヲ交付セズ

同號ハ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

(カ)ノ二、第八表ノ三ノ二ノ規定ニ依リ生徒ヨリ還付セシムベキ軍衣袴及夏衣袴ハ之ヲ還付セシメズ

附則

下士官、兵又ハ豫備員候補者ニ現ニ交付中ノ浦團覆ハ之ヲ還納セシムベシ

昭和十九年官房第一四一號ハ被服物品交付等ノ特例ナリ
(昭和十九年五月二十四日海軍公報(部内限)参照)

○通牒

海人機密第八二號

昭和十九年六月三十日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

豫備士官電報區別符號ニ席次ニ關スル件通牒

首題ノ件專修科目別ニ左記ノ通定メラレ候

一 電報區別符

呼稱	電報區別符	專修科目
航海班	ヨコ	商船學校航海科及水産講習所出身者
飛行班	ヨヒ	操縦偵察專修者
艦艇班	ヨテ	航海學校、水雷學校、對潜學校ニ於テ艦艇乗員ノ教程(講習)ヲ受ケタル者
陸戰班	ヨリ	陸戰專修者
對空班	ヨク	陸上對空專修者
化兵班	ヨカ	化兵專修者
衛所班	ヨエ	防備衛所專修者
通信班	ヨツ	通信專修者
電測班	ヨソ	電測專修者
飛行要務班	ヨヨ	飛行要務專修者
特信班	ヨト	通信關係專修者
機關班	ヨキ	商船學校機關科出身者
整備班	ヨセ	飛行機整備衛專修者及工機學校ニ於ケル機關係專修者
兵器整備班	ヨヘ	航空兵器整備衛專修者
測量班	ヨケ	測量施設適應性專修者等
氣象班	ヨシ	氣象專修者
教育班	ヨイ	普通學教育通譯

二 席次ハ區別符ニ拘ラス電報符ノ數字ノ順ニ依ル



0646



海人三第二號ノ六二
昭和十九年七月四日
昭和三十二年海人三第二號
依リ本號自白消然滅

關係各廳長殿
海軍省人事局長

兵役法施行規則第五十條ノ地域ニ在ル者中現
ニ海軍部隊ニ勤務シタル者ノ召集ニ關スル件
通牒

首題ノ件ニ關シ左記ノ通海陸軍協議ノ上陸軍一般ニ對シ陸軍大
臣ヨリ示達セラレタル旨通牒アリタルニ付了知相成度

記

一 兵役法施行規則第五十條ノ地域ニ在ル陸軍在郷軍人及兵隊
法施行規則第五十條ニ據リ兵籍ニ編入セラレタル者中現ニ海
軍部隊ニ勤務シタル者ヲ兵役法施行令第百十八條ノ規定ニ據
リ陸軍部隊ニ召集スル場合ニ於テ現地ニ於ケル海軍最高指揮
官ヨリ希望アリタルトキハ其ノ召集ニ關シ斟酌スルモノトス
二 兵役法施行規則第五十條ニ據リ兵籍ニ編入セラレタル者中
現ニ海軍部隊ニ勤務シタル者ヲ兵役法施行令第百十八條ノ規
定ニ據リ召集スル場合ニ於テ現地ニ於ケル海軍最高指揮官ヨ
リ之ヲ海軍ノ部隊ニ召集方希望アリタルトキハ原則トシテ之
ニ副フモノトス

(參照) 兵役法施行規則抜萃

第五十條 令二十一條第四項ノ規定ニ依リ徵兵終止處分ヲ經ザル
第二國民兵(海軍ニ召集セラレタル者ヲ除ク以下之ニ同ジ)ニ

シテ左ニ掲グル地域ニ居住スルモノハ之ヲ本籍所在ノ聯隊區ノ

海軍公報(部内限)第四七三二號 昭和十九年七月五日

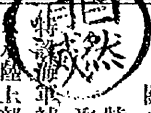
兵籍ニ編入シ當該聯隊區司令官ノ管轄ニ屬セシム
東京都八丈支廳長及小笠原支廳長管轄區域、北海道根室支
廳長管轄區域(根室郡、花咲郡、野付郡、標津郡及目梨郡ヲ
除ク)、鹿児島縣大島支廳長管轄區域、沖縄縣、台灣、南洋群
島、印度支那、タイ、ビルマ、フィリピン、故ニ大東亞
戰爭ニ依リ新ニ占領セル南方ノ諸地域

海人三第二號ノ六三
昭和十九年七月四日
昭和三十二年海人三第二號
依リ本號自白消然滅

關係各所轄長殿
海軍省人事局長

關係各所轄長殿

特設海軍病院等ニ入院シタル下士官及兵ノ人事
取扱ニ關スル件申述



特設海軍補充部分擔區域内ヲ行動スル艦船又ハ同區域内ニ所在
陸軍部隊其ノ他各部ニ勤務中ノ下士官及兵ヲ同區域内所在
ノ特設海軍病院等ニ入院セシメタル場合等ノ人事取扱ニ關シ左
ノ通定メラレ候

記

一 特設海軍病院ト隔在シ通信連絡不便ナル陸上部隊其ノ他各
部又ハ行動艦船ニ勤務スル者ヲ特設海軍病院ニ入院セシメタ
ルトキ病狀内地ニ還送ヲ要セザルモノハ入院ノ爲出發ノ日ヲ
以テ最寄ノ特設海軍補充部ニ送籍ス

二 通信連絡不便ナル陸上部隊其ノ他各部又ハ行動艦船ニ勤務
スル者ヲ治療設備等ノ都合上警備隊又ハ特別根據地隊ノ病舎
等ニ委託治療ヲ爲シタル場合ニ於テ概ネ一月以上治療ヲ要ス

九二七

0647

ル見込ノ者ナルトキ亦前號ニ準ズ
 三 前二號ニ依リ特設海軍補充部ノ補缺員ト爲リタル者又ハ艦
 船部隊其ノ他各部ヨリ直接内地ノ海軍病院等ニ還送ヲ要スル
 者ヲ病院船ニ入院(轉院)ヲ命ジ又ハ艦船ニ便乗セシメタル
 トキハ其ノ出發ノ日ヲ以テ在籍領守府ノ海兵團ニ送籍スルモ
 ノトス

軍需機密需第三九五號

昭和十九年七月三日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長 殿
 各特設海軍軍需部長 殿

經營需品供給停止、供給制限、代用品利用及
 規格低下ニ關スル件申進ノ件

昭和十八年八月二十六日軍需機密需第五七七號ヲ以テ申進ノ首
 題ノ件中左ノ通追加セラレ候條了知相成度

代用品使用又ハ規格低下

追加	區分	主管別	區別	品名	記	事
飛行長						
消耗品						
揮發油機革						
					細ネル製(絹布二枚ノ間ニ 綿ネル布ヲ入レ縫合セタル モノ)	
					正式品併用ノコト	
					大サハ定額表摘要ニ不揃申 約九二〇糎、長約一、二五 〇米トス	

○雜款

○軍事郵便物事故
 一 自四月二十四日開佐世保郵便局取扱ノ第二十五、第二十六、
 第二十八、第三十九、第四十一及第四十二海軍軍用郵便所宛
 郵便物ハ事故ニ依リ亡失セリ
 追テ亡失ニ關シ調査ヲ要スル向ハ差立月日、引受局名、引受
 番號及宛先記載ノ上本府ヘ照會セラレ度
 二 推定亡失郵便物

種別	佐世保局到着 取扱時間	記	事
通常郵便物	自四月二十四日〇九一五 至四月二十七日〇五二五	(一) 大阪―仙臺間 自四月二十二日至四月二十五日 (二) 仙臺以遠 自四月二十日至四月二十四日	
小包郵便物	自四月二十六日〇五二五 至四月二十七日〇五二五	(一) 大阪―仙臺間 自四月二十三日至四月二十五日 (二) 仙臺以遠 自四月二十二日至四月二十四日	

(佐世保領守府副官)

○事務開始

上海海軍衣糧廠ヲ六月一日第一海軍軍需部構内(軍需部廳舎三
 階)ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第二號輸送艦裝具事務所ハ六月二十五日之ヲ撤去セリ

○本日普通公報發行セス

0648

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十九年七月五日(水)
海軍大臣官房

○ 級位

昭和十九年三月十八日 海軍技師 秦 千代吉 敍正四位(特旨ヲ以テ位ニ級追陞セララル)	昭和十九年四月十日 海軍中尉 鈴江 理	昭和十九年四月十九日 海軍軍醫少將 天野 先吉 敍從四位(特旨ヲ以テ位ニ級追陞セララル)	昭和十九年四月二十九日 海軍主計中尉 千原 末男 敍從七位	昭和十九年五月六日 海軍少佐 水野 澄夫 敍從六位	昭和十九年五月十二日 海軍少尉 香取 章 敍正八位	昭和十九年五月十五日 海軍中將 田村 英																
入船直三郎	原田 清一	阿部 孝壯	一瀬 信一	山崎 重暉	伊藤 賢三	大森仙太郎	草鹿龍之介	山口 眞澄	森住 松雄	小林 義治	澤 遠	松本 暢	菅田 直樹	石黒 芳雄	横尾 石夫	米花徳太郎	森島 種雄	白神君太郎	江崎 岩吉	清水 文雄	名和 武	
海軍司政長官 福井 淳	海軍主計中佐 兩角 昂	海軍少佐 前村 光雄	同 若林 四郎次	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎	同 柳澤 彦八郎

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

<p>海軍主計大尉 寺本 靖 海軍中尉 寶田 竹藏</p> <p>海軍中尉 関口 辰次 同 米山 長三 同 松下 貞一 海軍軍樂中尉 鈴木 榮</p> <p>海軍兵曹長 福島 一雄 同 土井玉五郎 海軍上等兵曹 安部 忠</p> <p>海軍技術少尉 牧野 久夫</p>	<p>昭和十九年五月十六日 海軍少尉 依伯 雅司</p> <p>同 戸田 兼一</p> <p>昭和十九年五月十八日 海軍少尉 大橋 清明</p> <p>昭和十九年五月二十三日 海軍中尉 山口 磐</p> <p>昭和十九年五月三十日 海軍少將 柴田善治郎</p> <p>昭和十九年六月一日 海軍少佐 重滿 武雄</p> <p>本年三月三十一日官等陞叙セラレ海軍司 政官加藤澄藏以下ニシテ相當位以上ノ位 ヲ有セザル者ハ六月一日附各官相當位ニ 叙セラレタリ</p> <p>昭和十九年六月二日 海軍中尉 工藤 典男</p>	<p>海軍中將 御所 靜 海軍少將 長野 健輔</p>
<p>海軍中尉 相良 近以下 海軍技師 河野 正吉以下 同 四月四日任用)</p> <p>海軍少尉 木村 健三以下 同 四月五日任用)</p> <p>海軍少尉 寺嶋 義郎以下</p>	<p>昭和十九年三月十五日進叙ノ 海軍中尉 相良 近以下 三月三十一日官等陞叙ノ 海軍技師 河野 正吉以下 同 四月四日任用)</p> <p>同 四月五日任用)</p> <p>同 海軍少尉 寺嶋 義郎以下</p>	<p>海軍中尉 御所 靜 海軍少將 長野 健輔</p>
<p>海軍中尉 関口 辰次 米山 長三 松下 貞一 鈴木 榮</p> <p>福島 一雄 土井玉五郎 安部 忠</p> <p>牧野 久夫</p>	<p>依伯 雅司 戸田 兼一 大橋 清明 山口 磐 柴田善治郎 重滿 武雄</p>	<p>御所 靜 長野 健輔</p>

海軍公報 (部内限) 第四七三二號

昭和十九年七月六日(木)
海軍大臣官房

○令 達

達第二二六號

海軍官印規程中左ノ通改正ス

昭和十九年七月五日

海軍大臣 臣

第二條第二項中「支廠、」ヲ下ニ「分校、」ヲ加フ

官房人機密第一四三三號

昭和十七年官房機密第一五五六一號別冊中左ノ通改正ス

昭和十九年七月五日

海軍

内令提
要登載

第二號(ホ)表中記事ヲ削除ス

第四號中「、潛航術各種練習生」ヲ削除ス

第五號(ハ)中「在籍領守府司令長官ハ兵曹ニ非ザル下士官ニシ

テ」ノ下ニ「信號術特技兵、」ヲ加フ

附則第一號中「第五號」ヲ「第四號」ニ、「特修科砲術練習

生、特修科水雷術練習生、特修科水測術練習生及特修科電信術

練習生」ヲ「特修科各種練習生」ニ、「(ホ)」ハ、「第三號」ヲ

「第一號」ニ改ム

(參照) 昭和十七年官房機密第一五五六一號ハ大東亞戰爭中各種練

海軍公報 (部内限) 第四七三二號 昭和十九年七月六日

○通 牒

軍務一機密第五五七號

昭和十九年六月六日

海軍省軍務局長

關係各廳長 殿

航空事故調書記註ニ關スル件申進

海軍航空隊職員服務規程別表第一號様式ニ依ル航空事故調書記

註ニ關シテハ自今當分ノ間左記ニ依リ處理ノコトニ了知相成度

尙從來本調書提出若ハ送付洩ノモノ又ハ甚ダシク遅延セルモノ

多ク事故防止對策實施上支障抄カラザルニ付之ヲ迅速處理勵行

方取計相成度

記

一 記註要領

(イ) 搭乗員ノ部中操縦員ノ經歷及同乗員ノ經歷概要ハ特ニ必

要ト認ムル場合ノ外記註セズ

(ロ) 機體及發動機ノ部ニハ事故ノ原因方器材ニ關係アル場合

ノ外記註セズ

九二九

0651

(ハ) 事故概要ノ部ニハ經過ノ要點ノミヲ記註ス
 二 寫眞ハ事故原因ガ器材ノ設計、構造、工作、材質等ニ關係アル場合要スレバ其ノ器材不良局所ノモノノミヲ貼布ス

海人第二號ノ六四〇

昭和十九年七月一日

海軍省人事局長

各廳長殿

敘勳取扱ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ニ依リ處理スル義ト了知相成度

記

一 任用、進級又ハ戰務加算取得ノ爲直ニ敘勳資格發生スル場合ハ左ノ區分ニ依リ取扱フモノトス

種別	在職年	具申期日	在籍領守府司令官又ハ所屬長官通過期日
(イ) 任用進級ノ爲直ニ資格發生ノ場合	翌月末日トス	(一) 戰務加算ナキ場合 其ノ月二十五日迄ニ到達スル如ク具申ス但シ月ノ一日任用進級シタル者ノ具申ハ海軍軍人軍屬敘勳具申規則(以下具申規則ト稱ス)所定トス (二) 戰務加算アル場合 具申規則所定トス	(一) 戰務加算ナキ場合 具申規則所定トス (二) 戰務加算アル場合 具申規則所定トス

(イ) 戰務加算ノ資格發生ノ場合	右	右ニ準ズ	右
(ハ) 戰務加算ナキ職ヨリ加算アル職ニ轉動ノ爲資格發生ノ場合	右	具申規則所定トス	右
(ニ) 具申後加算取得ノ場合	具申通トス		

二 具申規則第三條第四項ニ依ル死亡者ノ定例敘勳ハ左ノ區分ニ依リ取扱フモノトス

種別	在職年	具申期日	履歴書	在籍領守府司令官又ハ所屬長官通過期日
(イ) 死亡ノ月	死亡ノ日トス	具申規則所定トス	備考欄ニ昭和年、月、日戰死ノ如ク失禮ス	戰死、職傷死者ハ在リテハ進達シテハ其ノ都府ニ進達ス
(ロ) 死亡ノ月	資格發生ノ月トス	右	同	職日以前ニ戦死、職傷死ハ在リテハ進達シテハ其ノ都府ニ進達ス
(二) 定例敘勳發令日	其ノ都府ニ進達ス	其ノ都府ニ進達ス	其ノ都府ニ進達ス	其ノ都府ニ進達ス

(イ) 航空機ニ搭乗シテ航空勤務ニ従事申又ハ潜水艦ニ在リテ潛航勤務申變故ニ因ル殉職者 (ロ) 右 同職死、戦傷死者	其申ノ方法 在籍領守府司令長官又ハ所屬長官進達	其申ノ方法 當分ノ間履歷書ニテヲ添ヘ速ニ交書ニテ進達ノコト	其申ヲ要セズ	右 同 右 同 死亡記事ヲ要セズ 其ノ都度速ニ進達ス	日以後ナル場 合ノ都度速ニ進達ス
四 敘勳其申用履歷書ノ照合ハ六月以内ニ資格發生豫定者又ハ計算上疑義アルモノニ付左ノ手續ニ依ルモノトス (イ) 照合ヲ要スルモノハ具申規則書式ニ依ル履歷書原稿(模造野紙)及別紙書式ノ名簿ヲ調製シ具申規則所定ノ區分ニ從ヒ人事局又ハ人事部ニ送付ス (ロ) 敘勳計算上必要ナル左ノ事項ヲ記載セル略歴(鉛筆書ニテ可)ヲ添附ス尙現ニ履歷照合依頼中ノモノニ對シテモ送付ノコト(資格發生年月附記ノコト) (一) 進叙(初叙ハ海軍就職以後ノモノ)以後ノ所轄名(司令部附、隊附等ニシテ艦船ニ乗艦シクル者ハ艦船名ヲモ記載ノコト)					
五 勳章ノ還納及返納 (イ) 支那事變行賞發令ニ依リ還納(返納)スベキ勳章ハ昭和十六年八月二十二日海人第二號ノ二四ニ依リ手續スベキ處未済ノ向ハ調査ノ上至急手續ノコト 尙定例ニ依ル還納勳章未還納ノモノモ併セテ至急處理ノコト					
敘勳資格照合用履歷書送付名簿 所轄 月 日送付團 名					
照合年月日	資格發生豫定年月	撰敘等	事 由	電報符號又ハ入籍番號	官 氏 名
空欄トス	昭和十九年十月	瑞七	六月以内又ハ疑義ノ要點ヲ記載ノコト	志水 八二五七	上曹 秋 月 清

海軍公報(部内限)第四七三三號 昭和十九年七月六日

九三一

0653

ト
 (ロ) 還納すべき勳章ニシテ已ムヲ得ザル事故ノ爲亡失シタルモノアルトキハ所轄長ノ亡失證明書(證明書ヲ得ラレザル場合ハ本人ノ亡失事由書)ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルニ付該當者ニ對シテハ其ノ都度本人ニ交付ノコト(定例、論功行賞各別紙ニ調製ノコト)
 (ハ) 還納(返納)すべき勳章ニハ勳章箱ノ表面左方ニ還納(返納)者ノ「所轄、勳記(假記)、番號及氏名」ヲ記シタル紙片ヲ貼附ス

○雜 款

○館山海軍砲術學校練習生入校先
 本校練習生中普通科練習生ハ海軍砲術學校規則ニ依リ海軍砲術學校普通科練習生(假稱)トシテ一旦横須賀海軍砲術學校ニ入校シ同校ニ於テ適性検査等實施シ兩校採用者ヲ定メ各區分ノ上本校ニ入校セシメラレ居候處五月三十一日達第七十五號ノ二ヲ以テ海軍砲術學校規則改正ノ結果直接本校ニ入校ノコトニ定メラレ候條可然取計相成度
 (館山海軍砲術學校長)

○事務開始

左記ノ通館山海軍砲術學校内ニ於テ事務ヲ開始セリ

六月十二日 第四百四十七防空隊

同 第四百四十八防空隊
 同 第四百四十九防空隊
 同 第四百五十防空隊
 同 第四百八十一防空隊
 同 第四百八十二防空隊

第三一二設營隊ハ六月十五日吳海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

驅逐艦桑葉裝具事務所ヲ六月二十四日大阪市住吉區柴谷町四四藤水田造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第二海軍療品廠假事務所ヲ六月二十七日大阪市北區玉江町二丁目大阪警備府構内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

驅逐艦梅嶺裝具事務所ハ六月二十八日之ヲ撤去セリ

○正誤

本年達第六十號中(三五四頁)十一行目「國有財産」トアルハ「國有林野」ノ、(三五五頁)四行目「乙」トアルハ「丙」ノ孰モ誤

○本日普通公報發行セス

海軍公報

(部内限) 第四七三三號

昭和十九年七月七日(金)

海軍大臣官房

○令 達

達第二二四號

大正二年達第六十四號中左ノ通改正ス

昭和十九年七月一日

海軍大臣

大湊要港ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

大阪灣 和田岬ト大津鼻トヲ接シタル一線以内

(諸例則卷三、三三七頁参照)

達第二二五號

明治四十二年達第六十九號中左ノ通改正ス

昭和十九年七月一日

海軍大臣

北浦ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

山田灣 館ヶ崎ト小根崎トヲ連結スル一線以内

琵琶湖ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

大阪港 大阪港港界線以内

神戸港 神戸港港界線以内

江田島ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

笠岡港 神ノ島西端御崎ト箕島南端葛ヶ巢崎トヲ連結スル

海軍公報(部内限) 第四七三三號 昭和十九年七月七日

線以北ノ海面

小松島灣ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

松山港 興居島黒崎ト港山トヲ連結スル線、興居島御手洗

岬ト重信用口トヲ連結スル線以内

相ノ浦ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

島原海灣 島原半島口之津燈臺ト天草上島志柿山トヲ連結ス

ル線以西ノ海面、天草下島シラタケ鼻ト湯島燈臺

トヲ連結スル線以南ノ海面

鹿兒島海灣ノ項中ニ左ノ如ク加フ

知林島ノ東端ヲ通ズル一六〇度及三四〇度線、魚見岳ヲ通ズ

ル一六〇度及三四〇度線、知林島東端ノ三四〇度一・五分同

ジク一六〇度二〇分ヲ通ズル各二五〇度線ニテ圍マル海面

(諸例則卷三、三三八頁参照)

官房人機密第一四五四號

昭和十九年勅令第二百二十四號ノ規定ニ依リ七月一日附任用セラ

レタル海軍齒科醫科士官ノ海軍ノ席次ヲ左ノ通定ム

昭和十九年七月一日

海軍大臣

海軍齒科醫中尉淺野頼雄「前」

九三三

0655

海軍齒科醫大尉	北川 正夫	〇二一
同	篠崎 寅雄	〇二二
同	湯本 隆中	〇二三
同	塚本 二郎	〇二四
同	中道 恵	〇二五
同	藤原 隆藏	〇二六
同	尾本 愛道	〇二七
同	松川 星吾	〇二八
同	新庄 鎮	〇二九
同	木村 一平	〇三〇
同	楠 正夫	〇三一
同	石黒 慶之助	〇三二
同	濱 弘人	〇三三
同	伊丹 八郎	〇三四
同	木目田 三郎	〇三五
同	折田 一郎	〇三六
同	田島 莨三	〇三七
同	依田 理	〇三八
同	熊登御堂 正良	〇三九
同	須田 爲紀	〇四〇
同	石黒 辨	〇四一
同	河合 豊	〇四二
同	松島 正康	〇四三

同	鈴木 哲	〇四四
同	伊東 祐治	〇四五
同	吉川 知彦	〇四六
同	中西 東洋男	〇四七
同	高森 稔	〇四八
同	佐藤 軍平	〇四九
同	前田 利一	〇五〇
同	笠原 梯三	〇五一
同	田中 秀房	〇五二
同	志岐 義彦	〇五三
同	久保田 甫	〇五四
同	増野 勇	〇五五
同	荒木 良二	〇五六

○通牒

官房備機密第三一八號ノ四
昭和十九年七月七日

内令 登載

海軍省 副官

各 廳 長 殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十九年官房備機密第三一八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

「郵便物取扱ニ關スル例規」中一頁九行目及十行目ヲ左ノ通改ム

「アリユーション 千島 内南洋 ビスマルク群島及舊英領ニューギニア方面……………横須賀郵便局氣付

比島 南ボルネオ 舊蘭領ニューギニア セレベス及ジャワ方面……………吳郵便局氣付

同 六頁十一行目8中貳錢ヲ參錢ニ改ム

同 十五頁大阪逓信局ノ項「徳島縣 高知縣」ヲ削ル

附録部隊區別符表(其ノ一)中ニ

第 四	輸 送 隊	ウ四四五
第 十 六	魚 雷 調 整 班	ウ四四六

ヲ加フ

同 (其ノ二)中ニ

第 九	十 八 防 空 隊	テ五五六
第 三 百 二	設 營 隊	テ五五七
第 三 百 十 二	設 營 隊	テ五五八

ヲ加フ

同 (其ノ四)中ニ

第 百 四	海 軍 病 院	セ登六四
第 百 四	經 理 部	セ登六五
第 三 百 三 十 一	設 營 隊	セ登六六
第 九 十 九	防 空 隊	セ登六七

ヲ加フ

海軍公報(部内限)第四七三三號 昭和十九年七月七日

九三五

0657

○ 雜 款

第一	三	二	防 空 隊	七 壹 六 八
第一	三	三	防 空 隊	七 壹 六 九

○ 事務開始

第三十一號海防艦艦裝員事務所ヲ六月二十九日横濱市鶴見區辨天町一七日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○ 事務所撤去

第三魚雷艇隊設立準備事務所ハ五月二十五日之ヲ撤去セリ
第三十號海防艦艦裝事務所ハ六月二十五日之ヲ撤去セリ

○ 殘務整理

第二十五、第三十五及第五十四防空隊ハ四月一日附解隊殘務整理ハ第七警備隊ニ於テ之ヲ行フ

○ 訂正

七月一日附官房教第五三號朝鮮及臺灣出身兵ノ取扱指導ニ關スル件申進中左ノ通訂正セラル
本文七行目「セラレタルヲ以テ今後採用ノ者ハ」ヲ「セラレ第三期以後ハ」ニ訂正
(參照 七月三日海軍公報(部内限) 九一九頁上段通隊附)

合 同 海 軍 葬 儀 執 行

期 日 及 時 刻	大 東 亞 戰 争 戰 歿 者	喪 葬 管 理 者	場 所	記 事
七月二十二日午前十時	故海軍中尉白木清一外諸勇士	名古屋地方海軍人事部長	名古屋市 東本願寺別院	佛 式
七月二十四日午前九時	故海軍中尉古家野淵松外諸勇士	岡山地方海軍人事部長	岡山市 内山下國民學校	同

○ 本日普通公報發行セズ

海軍公報

(部内限) 第四七三四號

海軍大臣官房

昭和十九年七月八日(土)

○令 達

達第二一七號

海軍豫備學生出身海軍少尉實務練習規則左ノ通定ム

昭和十九年七月六日

海軍大臣 臣

海軍豫備學生出身海軍少尉實務練習規則

第一條 實務練習ノ目的ハ海軍豫備學生(一般兵科)出身海軍少尉中將來海上ノ勤務ヲ主トスル者ニ對シ其ノ專修セル術科事項ヲ海上ノ實地ニ於テ訓練體得シ初級兵科豫備將校勤務ノ要領ヲ會得セシムルト共ニ益軍人精神ノ涵養、軍紀ノ慣熟、體力ノ練磨及識見ノ向上ヲ期シ以テ專修別ニ兵科豫備將校勤務ノ基礎ヲ完成セシムルニ在リ

第二條 實務練習期間ヲ約三月トシ主トシテ艦船ニ於テ之ヲ實施ス

第三條 實務練習ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ實施ス

- 一 豫備學生教育ニ於テ修得セル事項ヲ基礎トシ海上ニ於ケル實地訓練ニ依リ其ノ習得ヲ確實ナラシム
- 二 兵科豫備將校タル本分ヲ確守シ自啓自強其ノ職責ヲ遂行スルノ習性ヲ涵養セシム

海軍公報(部内限) 第四七三四號 昭和十九年七月八日

三 專修別ニ初級兵科豫備將校トシテ職務遂行ニ遺憾ナカラシムルト共ニ其ノ海上勤務ノ基礎ヲ完成セシム

四 專修セル術科ニ基キ左表ニ依リ配置ヲ定メ初級士官教育實施規程ニ準ジ教育ヲ實施ス

番號	專修別出身學校名	同上術科修得ノ目標
一	海軍水雷學校	魚雷艇艇長
二	海軍對潛學校	艦艇班 防備艦艇乘組
三	海軍航海學校	航海班 一般艦艇乘組初級士官(特定配置)
四	海軍工機學校	魚雷艇隊基地隊附初級士官

第四條 實務練習ハ適宜指導官及指導官附ヲ附シ之ヲ指導ニ當ラシムルモノトス

第五條 實務練習實施ノ所轄長ハ實務練習終了シタルトキハ其ノ都度實務練習實施ノ概要ニ成績及所見ヲ附シ海軍大臣ニ報告スベシ

實務練習ノ中途轉勤セル者ニ對シテハ前所轄長ハ前項ノ事項中所要ノモノヲ新所轄長ニ移牒スベシ

達第二一八號

海軍從軍部外官吏身上及給與取扱規則左ノ通定ム

九三七

0659

昭和十九年七月七日

海軍大臣

第一條 本則ニ於テ海軍從軍部外官吏(以下從軍文官ト稱ス)ト稱スルハ明治三十八年勅令第四十三號等ノ規定ニ依リ戰時又ハ事變ニ際シ海軍ノ臨時特設ノ部局又ハ部隊ニ配屬セラレ他省(廳)ノ定員外トナリタル者ヲ謂フ

第二條 從軍文官ハ海軍軍屬宣誓規則ニ依リ宣誓セシメ之ヲ海軍軍屬トス

第三條 從軍文官ノ待遇及俸給ハ原所屬廳ニ於ケル待遇及俸給ニ關スル規定ニ依リ其ノ他ノ給與ハ海軍ノ文官ニ付定ムル規定ニ依ル

第四條 從軍文官ノ給與ニ要スル經費ハ海軍之ヲ負擔ス

第五條 從軍文官ノ命課ハ海軍大臣之ヲ行フ

第六條 從軍文官ノ命課ハ別紙第一様式ニ依ル

第七條 所屬長官又ハ所轄長ハ新ニ從軍ヲ要スル者アルトキハ官職、氏名、擔當セシムベキ業務、從軍スベキ所轄名及其ノ事由ヲ海軍大臣ニ具申スベシ

第八條 前項ノ具申ハ艦政本部長、航空本部長、電波本部長、施設本部長、運輸本部長、水路本部長、海軍省各局長及南方政務部長之ヲ代行スルコトヲ得

第九條 所屬長官又ハ所轄長(前條第二項ノ廳長等ヲ含ム)ハ從軍文官ニシテ原所屬廳等ニ復歸セシムベキモノ又ハ他ノ所轄ニ業務若ハ配屬變更セシムベキモノアルトキハ事由ヲ附シ

之ヲ海軍大臣ニ具申スベシ

第七條 從軍文官ノ履歷書(海軍文官身上取扱規則第五様式ニ準ズ)ハ正副二通トシ正本ハ海軍省人事局長、副本ハ本人ノ所轄長之ヲ保管スベシ

第八條 新ニ從軍文官トシテ配屬セラレタル者ハ履歷書二通ヲ作製シ前條ノ區分ニ從ヒ一通ハ海軍省人事局長ニ、一通ハ所轄長ニ之ヲ差出スベシ

第九條 從軍文官其ノ所轄ヲ變更シタルトキハ舊所轄長ハ履歷書副本ヲ新所轄長ニ送付スベシ

第十條 履歷書ハ保管官廳ニ於テ之ヲ記入スベシ

第十一條 從軍文官其ノ所轄ヲ變更シタルトキハ舊所轄長ハ履歷書ニ於テ之ヲ記入スベシ

第十二條 從軍文官ノ恩給年加算ト爲ルベキ事項及其ノ始終期ニ付テハ其ノ都度所轄長ヨリ事出、官職及氏名ト共ニ之ヲ海軍省人事局長ニ通報スベシ但シ恩給取扱手續第八條ノ規定ニ依リ勤務日誌寫ヲ送付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 海軍省人事局長ハ前項ノ通報ニ基キ所要ノ事項ヲ原所屬廳ニ通報スルモノトス

第十四條 所轄長ハ從軍文官ニシテ特記スベキ善行又ハ非行アリタルトキハ其ノ都度之ヲ海軍省人事局長ニ通報スベシ

0660

海軍省人事局長ハ前項ノ通報中必要ト認ムルモノハ之ヲ原所
屬屬ニ通報スルモノトス

第十四條 所轄長ハ從軍文官ニシテ死亡又ハ所在不明ト爲リタ
ルモノアルトキハ其ノ情況ト共ニ速ニ之ヲ海軍省人事局長ニ
通報スベシ但シ大東亞戰爭中戰歿者等身上取扱規則第三章ニ
規定スル事項ニ付テハ同規則ノ定ムル所ニ依ル

所在不明ノ者所在分明シタルトキ亦前項ニ同ジ

第十五條 所轄長ハ從軍文官原所屬廳等ニ復歸又ハ死亡シタル
トキハ履歷書副本ヲ海軍省人事局長ニ送付スベシ

海軍省人事局長ハ前項ノ履歷書副本ヲ本人又ハ其ノ遺族ニ下
付スルコトヲ得

第十六條 從軍文官ノ官等階級、敘位、敘勳及増俸ハ原所屬廳
ニ於テ之ヲ行フ

原所屬廳ヨリ前項ノ事項ニ關シ通牒アリタルトキハ海軍省人
事局長ハ其ノ旨配屬者ノ現勤務廳ニ通知スルモノトス

第十七條 他省(廳)ノ雇員傭人ニシテ海軍ニ配屬ヲ命ゼラレ
タルモノニ付テハ本則ニ準ジ取扱ヲ爲スコトヲ得

附 則

本達ハ昭和十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

所轄長ハ現ニ配屬中ノ從軍文官(雇員、傭人タル者ヲ含ム)ニ
付昭和十九年七月一日現在ニ於ケル名簿及履歷書ヲ作製シ速ニ
海軍省人事局長ニ送付スベシ

(別紙様式添)

官房機密第二五號ノ七三
昭和十九年七月七日
海軍大臣

各領守府司令長官
大湊、高雄、鎮海警備府司令長官
兵器簿ノ件通達
各艦船兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス
記

區分	類	別	品	名	雜	記	摘	要
改正	四十口徑	三年式	八割高角砲	當裝一式徹甲彈藥包	對潛(對潛信符共)ヲ代用シ得	雜記追記		

○ 通 牒

經豫機密第三號ノ四七

昭和十九年七月六日

海軍省經理局長

關係各支出官
關係各廳長 殿

部外施設應急借用ニ要スル經費ノ支辨科目ニ
關スル件通牒

各種作業等ノ爲各廳(戰地ヲ除ク)ニ於テ部外施設(用地ヲ含
ム)ノ應急賃借ヲ要スル場合ニ於ケル首題ノ件ハ別ニ定ムル場
合ヲ除キ當分ノ間左記ニ依ル義ト了知相成度

0661

追テ借用ノ可否自體ニ付テハ從來通ノ取扱ニ依ル義ニ付爲念申添候
尙現在既ニ實行中ノモノニシテ本通牒内容ト異ルモノハ今期契約期間内更改ノ要無之候

記

一 造船造兵其ノ他ノ工事又ハ作業ノ爲ニ借用ノ場合
(イ) 本來ナラバ新建築又ハ新裝備方訓令通牒セラレベキ程度ノモノ

工作廳（火藥廠ヲ除ク） 造船造兵及修理費、雜費
火藥廠、燃料廠 作業費、事務費、雜費
衣 糧 廠 衣 糧 費、雜費
療 品 廠 患 者 費、雜費
施 設 部 營 繕 費、作 場 費
軍 需 部 艦 營 費、保 管 運 搬 費
衣 糧 費、雜費
造 船 造 兵 及 修 理 費、雜費
水 路 部 水 路 費、雜費
氣 象 部 氣 象 費、雜費
運 輸 部 運 輸 費
(ロ) 臨時應命ノ借用ニシテ(イ)以外ノモノ
工作廳（火藥廠ヲ除ク） 附 屬 費（整理符號六）
右以外ノ作業廳 右ニ相當スル費目
二 工事又ハ作業以外ノ爲ニ借用ノ場合

部 隊 艦 營 費、家 屋 其 他 借 料
學 校 教 育 諸 費、家 屋 其 他 借 料
病 院 患 者 費、雜 費
其ノ他ノ各部 雜 給 及 雜 費、家 屋 其 他 借 料

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更
第三十二驅逐隊司令ハ六月七日司令驅逐艦ヲ玉波ニ變更セリ

○開隊
第五十海軍航空隊（假稱）ハ七月一日長崎縣大村市大村航空基地内ニ開隊セリ

○事務開始
驅逐艦旗艦裝具事務所ヲ七月一日舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
第二十五魚雷調整班事務所ハ五月二十日之ヲ撤去セリ

○正誤
七月五日附海軍公報（部内限）四七三二號令達欄下段「官房需第二九八號」ハ「官房需第一七二號」ノ、同通牒九二六頁下段十六行目「術技班」ハ「技術班」ノ孰モ誤

○本日普通公報發行セズ

0662

4754927

(透第二一八號別紙第一様式)

(昭和十九年七月八日海軍公報(部内限))

鐵道官補 何 某

第百一海軍工作部附ヲ命ス

昭和 年 月 日

海 軍 省

通信事務官 何 某

第十海軍軍用郵便所長ヲ免ス

昭和 年 月 日

海 軍 省

第、氣象隊附氣象技師 何 某

海軍氣象部附ヲ命ス

昭和 年 月 日

海 軍 省

0663

(達第ニ二八號別紙第二様式)

(昭和十九年七月八日海軍公報(部内限))

年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	事	項	名
				叙高等官何等					第、海軍軍用郵便所長ヲ命ス 、丸便乗 横須賀發内南洋方面 戰地戰務	海軍省
			給何級俸						内地歸着	海軍省
									第、海軍軍用郵便所長ヲ免ス	海軍省

0668-2

海軍公報

(部内限) 第四七三五號

海軍大臣官房

昭和十九年七月十日(月)

○令 達

達第三一九號

海軍警査及海軍監獄看守採用規則中左ノ通改正ス

昭和十九年七月七日

海軍大臣 臣

第二條及第三條中「要港部司令官」ヲ「警備府司令長官」ニ改

第四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ海軍警査及海軍監獄看守ヲ志

願スルコトヲ得ス

一 年齢二十年未満及五十年以上ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權セサル者

第七條第二項中「要港部司令官」ヲ「警備府司令長官」ニ改メ

第三項ヲ左ノ如ク改ム

鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官(東京ニ在テハ海軍省法

務局長) 第二條第二項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタルトキハ試

驗合格者ノ氏名及其ノ成績ヲ囑託廳ニ通報スヘシ

第八條第一號及第八條ノ二第一號中「海陸軍下士、歸休ノ海軍

下士及海陸軍下士タリシ者」ヲ「海陸軍ノ下士官、歸休中ノ海

軍公報(部内限) 第四七三五號

昭和十九年七月十日

軍下士官及海陸軍ノ下士官タリシ者」ニ改ム

(諸例則卷二 二二七頁参照)

達第三二〇號

雇員傭人規則中左ノ通改正ス

昭和十九年七月七日

海軍大臣 臣

附表第二中勤務廳ノ欄中技工士、運轉士、醫務助手、看護婦、

機關手、電機手、工作手、操船手、彫刻手、印刷手、經師手、

倉庫手、電話手ノ各項「水路部、」ノ下ニ「氣象部、」ヲ、運

轉手ノ項「航空本部、」ノ下ニ「氣象部、」ヲ加フ

(諸例則卷二 七七九頁参照)

達第三二二號

海軍勤務統計調査規程左ノ通定ム

昭和十九年七月八日

海軍大臣 臣

海軍勤務統計調査規程

第一章 總 則

第一條 本規程ハ海軍省所管各廳ニ付キ勤務統計調査令ニ依ル

勤務統計調査ヲ行フ場合ノ手續ニ關スルコトヲ規定ス

海軍公報(部内限) 第四七三五號

昭和十九年七月十日

九四一

0664

第二條 勤勞統計調査(以下調査ト稱ス)ハ之ヲ分チテ年次勤勞統計調査(以下年次調査ト稱ス)、毎月勤勞統計調査(以下毎月調査ト稱ス)及特別勤勞統計調査(以下特別調査ト稱ス)ノ三種トス

第三條 本規程ニ於テ事業場ト稱スルハ現業的ナル各廳又ハ之ニ所屬スル事業場ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

一 工場

一定ノ場所ニ於テ物ノ製造、加工、淨洗、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業ヲ行フモノ

二 ガス、電氣、水道事業場

一定ノ場所ニ於テガス、電氣若ハ各種動力ノ發生、變更若ハ傳導ヲ爲ス事業又ハ水道ノ事業ヲ行フモノ

三 土木、建築事業場

土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、破損又ハ其ノ準備ノ事業ヲ行フモノ

四 鑛業事業場

鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ヲ行フモノ

五 交通事業場

運輸事業ヲ行フモノ
本規程ニ於テ其ノ他ノ事業體ト稱スルハ非現業的ナル各廳ニシテ使用從業者ヲ有スルモノヲ謂フ

本規程ニ於テ船舶ト稱スルハ噸噸數二十噸以上ノ船舶(徵備船舶ヲ除ク)ヲ謂フ

第四條 本規程ニ於テ從業者ト稱スルハ左ニ該當スル者ヲ謂フ但シ判任官同待遇者以上ノ者並ニ應召者及入營者ハ之ヲ除ク

一 勞務者

(イ) 常備勞務者トハ傭人、工員、鑛員及人夫、女子挺身隊、集團移入ノ朝鮮人、臺灣人及華人勞務者並ニ俘虜等常備的性質ヲ有スル勞務者ヲ謂フ

(ロ) 日傭勞務者トハ日々又ハ一月以内ノ短期間ノ雇傭契約ニ依ル勞務者及勞務供給業者ヨリ供給ヲ受クル勞務者ヲ謂フ

(ハ) 臨時的勞務者トハ學徒動員ニ依リ動員セラレタル學徒、使用期間ニ拘ラズ國民勤勞報國協力令ニ依ル報國隊員、其ノ他ノ臨時的勤勞奉仕隊員、季節的勞務者、囚人等ヲ謂フ

二 技術者

技術者トハ作業ノ企畫、指導、工程管理等技術的業務ニ從事スル者ヲ謂フ

三 事務者

事務者トハ人事、會計、簿記其ノ他一般ノ事務ニ從事スル者ヲ謂フ

第五條 本規程ニ於テ所屬長官ト稱スルハ鎮守府司令長官、警備府司令長官、海軍直轄學校長、海軍省構内各廳長、海軍艦政本部長、海軍施設本部長及水路部長ヲ謂フ

第六條 本調査ハ特定ノ廳毎ニ之ヲ行フ但シ其ノ廳ト所在地ヲ

0665

異ニスル當該廳ノ一部ノ施設ハ之ヲ一事業場又ハ一事業體ト看做ス

第七條 本調査ヲ行フ廳長ハ當該廳又ハ所屬事業場、所屬事業體若ハ所屬船舶ニ於ケル調査ノ執行ヲ指揮監督ス

廳長ハ本調査ノ爲部下職員從業員中ヨリ調査擔當者及調査員ヲ任命スルモノトス

第八條 所屬長官ハ本調査ノ施行ヲ監督スルモノトス

第九條 臨時ニ他ノ廳、民間工場等ニ派遣中ノ從業者ニ付テハ總テ派遣元廳タル事業場又ハ事業體ニ於テ之ヲ調査ス

第十條 調査票ニハ調査擔當者調査事項ヲ記入ノ上捺印シ(年次調査ニ在リテハ調査擔當者ノ外調査員調査事項ヲ記入ノ上捺印スルモノトス)廳長ハ其ノ誤ナキコトヲ確メ記名捺印シタル上所屬長官ニ提出スルモノトス

所屬長官ハ前項ノ調査票ヲ取纏メ年次調査ニ在リテハ七月二十日迄ニ、毎月調査及特別調査ニ在リテハ翌月十五日迄ニ海軍大臣ニ提出スルモノトス

第十一條 調査票用紙ハ海軍省兵備局長ヲシテ之ヲ配付セシム

第十二條 朝鮮、臺灣及關東州ニ於ケル調査ニ關シテハ各所屬長官ハ本規程ニ準據シ朝鮮總督、臺灣總督又ハ滿洲國駐劄特命全權大使ト協議ノ上之ヲ行フ

第二章 年次調査

第十三條 本調査ハ毎年六月三十日現在ニ依リ之ヲ行フ各年ノ調査ノ名稱ニハ之ヲ行フ年次毎ニ其ノ年號ヲ冠ス

第十四條 本調査ヲ行フ廳名別表第一ノ如シ

第十五條 調査スベキ事項左ノ如シ

一 事業場及其ノ他ノ事業體關係

事業場又ハ事業體ノ名

事業場又ハ事業體ノ所在地

事業ノ種類

從業者ノ現在數

從業者ノ一年間ノ異動

從業者ノ一年間ノ雇入

常備勞務者

技術者

事務者

從業者中三月以上ニ亙リ勤勞ニ從事セザル者

工場法適用ノ有無(事業場ノミ)

日傭勞務者及臨時的勞務者ノ一年間ノ延人員(事業場ノミ)

二 船舶關係

- (イ) 總體調査
- (一) 事業所ノ名
- (二) 事業所ノ所在地
- (三) 船舶數
- (四) 高級船員
- (五) 普通船員
- (六) 年輪別乘組員數

(七) 一月間ノ給與

(ロ) 個別調査

(一) 船名

(二) 事務所ノ名

(三) 事務所ノ所在地

(四) 船舶ノ種類

(五) 總噸數及公稱馬力

(六) 航行區域又ハ從業制限

(七) 船舶使用ノ目的

(八) 高級船員個人別

(九) 普通船員

第十六條 本調査ハ年次勤務調査票甲用紙、同乙用紙、同丙ノ

一用紙及同丙ノ二用紙ノ記入ニ依リ之ヲ行フ

前項ノ各調査票用紙ノ様式ハ別表第二乃至第五ニ依ル

第十七條 所屬長官ハ毎年五月二十日迄ニ本調査ニ用フベキ調

査票用紙ノ豫定所要數ヲ様式別ニ調査シ海軍省兵備局長ニ通

知スルモノトス

第三章 毎月調査

第十八條 本調査ハ毎月末現在ニ依リ之ヲ行フ

第十九條 本調査ヲ行フベキ應ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 調査スベキ事項左ノ如シ

一 事業場ノ名

二 事業場ノ所在地

三 事業ノ種類

四 常備勤務者ノ一月間ノ異動

五 常備勤務者ノ一月間ノ就業人員、就業時間及賃金

第二十一條 本調査ハ毎月勤務調査票甲用紙ノ記入ニ依リ之ヲ

行フ

前項ノ各調査票用紙ノ様式ハ別表第六ニ依ル

第二十二條 所屬長官ハ毎年十一月中ニ翌年前半期分ノ、又毎

年五月中ニ其ノ年ノ後半期分ノ本調査ニ用フベキ調査票用紙

ノ豫定所要數ヲ様式別ニ調査シ海軍省兵備局長ニ通知スルモ

ノトス

第四章 特別調査

第二十三條 本調査ハ毎月末現在ニ依リ之ヲ行フ

第二十四條 本調査ヲ行フベキ應ハ別ニ之ヲ定ム

第二十五條 調査スベキ事項左ノ如シ

一 事業場ノ名

二 事業場ノ所在地

三 事業ノ種類

四 従業者ノ一月間ノ異動

五 常備工員ノ一月間ノ就業人員、就業時間及賃金

第二十六條 本調査ハ特別勤務調査票用紙ノ記入ニ依リ之ヲ行

フ

前項ノ各調査票用紙ノ様式ハ別表第七ニ依ル

第二十七條 所屬長官ハ第二十二條ノ規定ニ準ジ本調査ニ用フ

0667

ベキ調査票用紙ノ豫定所要數ヲ海軍省兵備局長ニ通知スルモ
ノトス

附則

毎月調査及特別調査ニ關スル規定ハ昭和十九年七月末現在ニ依
リ行フ調査ヨリ之ヲ適用ス

朝鮮、臺灣及關東州ニ在リテハ年次調査ニ關スル規定ハ昭和二
十年年次調査ヨリ之ヲ適用ス

海軍勞働技術統計調査施行規則ハ之ヲ廢止ス但シ朝鮮、臺灣及
關東州ニ在リテハ昭和十九年勞働技術統計調査ニ關シ仍其ノ效
力ヲ有ス

海軍勞働統計毎月實地調査施行規則ハ昭和十九年六月末日現在
ニ依リ行フ調査限り之ヲ廢止ス

(別表一葉添) (自別表第二至別表第七省略)

官房經第六三二號

昭和十五年官房第三九三二號中左ノ通改正ス

昭和十九年七月七日

海軍大臣

第一項ヲ左ノ如ク改ム

當分ノ間海軍部内ニ於テ所屬ヲ轉ジタル軍人ニシテ俸給支給定
日前退廳スルモノニ支給スベキ其ノ月ノ俸給ハ海軍給與令施行
細則第十三條第一項及第二項ノ規定ニ拘ラズ前廳退廳ノ際其ノ
月分ノ全額ヲ支給ス但シ既ニ前金拂ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ

在ラズ

第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項及前項ノ規定ハ軍屬(囑託者ヲ含ム)海軍部内ニ於テ轉
勤スル場合ニ支給スル俸給又ハ給料(報酬金ヲ含ム)ニ付之ヲ
準用ス

附則

昭和十五年官房第三九三三號及第三九三四號ハ之ヲ廢止ス

(參照) 昭和十五年官房第三九三三號海軍會計法規類集二卷二一〇頁

昭和十五年官房第三九三三號同 二一九頁

官房需第一七五號

昭和十八年官房需第二〇九號中左ノ通改正ス

昭和十九年七月八日

海軍大臣

別表第二中乾燥野菜ノ量額「八〇」ヲ「五五」ニ、別表第四中
乾燥野菜ノ量額「七〇」ヲ「五五」ニ改ム

(參照) 海軍會計法規類集二卷三三〇ノ六頁

○通牒

官房軍機密第九〇六號

昭和十九年七月八日

海軍大臣

海軍公報(辭内限) 第四七三五號 昭和十九年七月十日

九四五



0668

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長 殿

艦裝員長以下任命時期標準改正ノ件通知

昭和十一年官房機密第二七六四號決裁ニ依ル首題ノ件左記ノ通
改正セラレ候

一 潜水艦ノ部ヲ左ノ如ク改ム

潜水艦		水雷艦	
機長	一	水雷長	一
下士官	一	水雷長	一
竣工前	七ヶ月	竣工前	六ヶ月
水上公試	二ヶ月	水上公試	一ヶ月
新設計艦基準艦ノ機長タルベキ豫定者ハ任命前約二ヶ月適當ノ應ラシムルヲ例トス			

二 (註) (一) 申但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ潜水艦ニ在リテハ若干配員時期ヲ繰上グルモノトス

三 (註) (四) 中「同型艦」ノ下ニ「潜水艦ヲ除ク」ヲ加フ

(内令提要卷三、一頁参照)

教育機密第二三三三號
昭和十九年七月七日

海軍省教育局長
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各艦隊司令官
練習隊司令官
關係各所轉長 殿

海軍豫備學生出身海軍少尉實務練習ニ關スル
件申進

來ル七月十日其ノ教育ヲ終了豫定ノ首題海軍少尉中將來海上ノ勤務ヲ主トスル者ニ對スル實務練習ハ達第二一七號實務練習規則ニ基キ左記ニ依リ實施セラルル豫定ニ有之候條了知相成度

備考	四 工機校	三 航校	二 對潛校	一 水校	番號
アリ	整備(魚雷艇)關 約八〇名	航海班 約二〇名	艦艇班 約二五〇名	魚雷艇關 約一六〇名	出身學 別種別
		至九月二十日	自七月十日		員數
	主トシテ内 及一部工機校	主トシテ練習隊	主トシテ對潛艦及 防戰	主トシテ内 地防備隊	期間
		實務練習中ノ配置ハ航海長附、運用分隊士、機銃射撃指導官、シム			實務練習 記事

0669

軍需機密衣第六八號

昭和十九年七月八日

海軍省軍需局
海軍省經理局

關係各廳御中

生徒被服還付取立取止ニ關スル件通知

昭和十九年官房需第一七二號ヲ以テ生徒ヨリ軍衣袴及夏衣袴ヲ還付セシメザルコトニ改正相成候條昭和十八年軍需機密衣第一三七號ハ自然消滅ノ義ト承知相成度

(參照) 一 昭和十九年官房需第一七二號(同年七月五日海軍公報(部内限))

二 昭和十八年軍需機密衣第一三七號(機密會計法規八八頁)

經給第一〇九號

昭和十九年七月七日

海軍省經理局長

關係各廳御中

俸給又ハ給料支給區分、國庫納金、所得稅等ノ取扱方ニ關スル件通牒

今般官房經第六三三號ヲ以テ俸給又ハ給料ノ支給區分ニ付昭和十五年官房第三九三二號中改正セラレ候處本件ハ軍人軍屬ノ異動極メテ繁雜ナル現狀ニ鑑ミ之ニ伴フ給與事務、國庫納金事務及所得稅徵收事務ヲ極力簡易化セシメラル趣旨ニ依ルモノニ

海軍公報(部内限)第四七三五號 昭和十九年七月十日

有之其ノ取扱ニ付テハ左記ニ依リ處理スル義ト了知相成度

- 一 海軍部内ノ各廳間ニ於テ轉勤、轉雇轉備又ハ轉屬セル軍人軍屬(囑託者ヲ含ム)ニ支給スル其ノ月ノ俸給(職務加俸并會費)、給料(勤績加俸ヲ含ム)、報酬金又ハ特別加俸ハ前廳退廳ノ日ノ現在ノ受クベキ金額ニ依リ其ノ月ノ末日迄支給スルモノニシテ其ノ他ノ給與ハ從前通退廳ノ日迄前廳ニ於テ支給スルモノトス
- 前項ノ場合俸給等ノ費途ノ款ヲ異ニスルトキト雖モ前廳ニ於テハ從前ノ費途ニ依ルモノトス
- 第一項ノ特例ニ依リ前廳退廳後生シタル事由ニ依リ過拂又ハ不足拂ト爲リタル金額アルトキハ後廳ニ於テ其ノ應ニ於テ支給スベキ費途ヲ以テ處理スルモノトス
- 二 國庫納金ハ退廳ノ日前廳方海軍戰時特例給與規則第一條ニ掲グル地(以下戰地ト稱ス)以外ナルトキハ之ヲ納付ヲ要スルモノトス
- 三 所得稅ハ戰地ニ赴任、轉勤スル者若ハ一時往復スル者又ハ昭和十六年官房機密第一二六三九號ノ規定ニ依リ戰時増俸ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ戰時増俸ヲ受クル月ニ付テハ之ヲ徵收セズ從ツテ赴任又ハ退廳ノ日其ノ戰時増俸ヲ受クル者ニ付テハ其ノ月ハ所得稅ハ課セラレザルモノトス
- 四 昭和十五年經給第七四號ハ之ヲ廢止ス

(參照) 昭和十五年經給第七四號(海軍會計法規類集二卷八七七頁)

艦機密第三號ノ四八

昭和十九年七月七日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ左記ニ設置シ夫々之ガ事務ヲ取扱フコトト相成候

記

東 京 都 大 森 區 「大森一丁目」

中 華 民 國 河 南 省 「鄭州」、「歸德」

ビ ル マ 國 「メルギ」、「ブローム」

モ ル ツ カ 諸 島 ハ ル マ ヘ ラ 島 「ワシレ」、「カウ」

艦本機密第四號ノ一一〇七〇

大東亞戰爭中左ノ艦種ノ艦船搭載重量重心計測ハ艦船搭載重量重心計測並ニ處理規程ノ規定ニ拘ラズ特ニ指示スル場合ノ外同一建造所ノ同型第三艦以降ノ艦ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

昭和十九年七月五日

海軍艦政本部長

三三一號艦型

二四〇一號艦型

二七〇一號艦型

五四八一號艦型
二九〇一號艦型

航本機密第八四九二號

昭和十九年七月六日

海軍航空本部長

關係各廳長 殿

點火栓假充當ニ關スル件通牒

雲母資源不足ニ伴ヒ磁器點火栓ノ試作實驗促進中ノ處概ネ實用ニ支障ナキモノ完成セルニ付自今主トシテ磁器點火栓ヲ供給假充當セラルベキヲ以テ昭和十六年九月航本機密第九五一六號通牒ニ拘ラズ別表假充當表ニ依リ處理相成度
(別表ハ所要ノ向ニ送付ス)

○ 雜 款

○事務所撤去

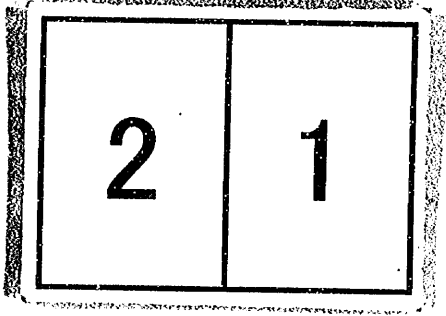
海防艦五百島艦裝員事務所ハ六月二十八日之ヲ撤去セリ

○失官

○本日普通公報發行セズ

0671

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	事業場に属する各庁 その他の事業体に属する各庁
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

一 事業場ニ屬スル各屬

橫須賀海軍施設部	佐世保海軍工廠	第一海軍衣糧廠
吳海軍施設部	川棚海軍工廠	第二海軍衣糧廠
佐世保海軍施設部	舞鶴海軍工廠	第二海軍衣糧廠岡山支廠
舞鶴海軍施設部	大湊海軍工作部	第一海軍撥品廠
大湊海軍施設部	海軍航空技術廠	第二海軍撥品廠
大阪海軍施設部	海軍航空技術廠支廠	橫須賀海軍港務部
橫須賀海軍需部	第一海軍航空廠	吳海軍港務部
吳海軍需部	第二海軍航空廠	德山海軍港務部
佐世保海軍需部	第十一海軍航空廠	佐世保海軍港務部
舞鶴海軍需部	第十二海軍航空廠	舞鶴海軍港務部
大湊海軍需部	第二十一海軍航空廠	大湊海軍港務部
大阪海軍需部	第二十二海軍航空廠	橫須賀海軍港務部
橫須賀海軍工廠	第三十一海軍航空廠	吳海軍運輸部
多賀城海軍工廠	第四十一海軍航空廠	佐世保海軍運輸部
相模海軍工廠	第四十二海軍航空廠	舞鶴海軍運輸部
高座海軍工廠	第一海軍火藥廠	大湊海軍運輸部
酒井海軍工廠	第二海軍火藥廠	大阪海軍運輸部
舞鶴海軍工廠	第三海軍火藥廠	海軍技術研究所
舞鶴海軍工廠	第四海軍火藥廠	海軍艦政本部製圖工場
津海軍工廠	第一海軍燃料廠	海軍航空本部製圖工場
吳海軍工廠	第二海軍燃料廠	海軍電波本部製圖工場
廣海軍工廠	第三海軍燃料廠	
光海軍工廠	第四海軍燃料廠	
	第一海軍衣糧廠	

其ノ他ノ事業場ニ屬スル各屬

橫須賀海軍守府	橫須賀海軍病院	在東京海軍監督官事務所
吳海軍守府	吳海軍病院	在大阪海軍監督官事務所
佐世保海軍守府	佐世保海軍病院	在神戶海軍監督官事務所
舞鶴海軍守府	舞鶴海軍病院	在長崎海軍監督官事務所
大湊海軍備府	大湊海軍病院	在名古屋海軍監督官事務所
大阪海軍備府	野比海軍病院	在浦賀海軍監督官事務所
橫須賀海軍人事務部	湊海軍病院	在室蘭海軍監督官事務所
吳海軍人事務部	慶々浦海軍病院	在八幡海軍監督官事務所
佐世保海軍人事務部	岩國海軍病院	在廣島海軍監督官事務所
舞鶴海軍人事務部	別府海軍病院	在福岡海軍監督官事務所
札幌海軍人事務部	大村海軍病院	在岡山海軍監督官事務所
青森海軍人事務部	婿野海軍病院	在富山海軍監督官事務所
秋田海軍人事務部	山中海軍病院	海軍大學校
盛岡海軍人事務部	霧島海軍病院	海軍兵學校
仙臺海軍人事務部	戸塚海軍病院	海軍機關學校
長野海軍人事務部	賀茂海軍病院	海軍醫學校
宇都宮海軍人事務部	高等海軍法會議	海軍經理學校
靜岡海軍人事務部	東京海軍法會議	橫須賀海軍砲術學校
名古屋海軍人事務部	橫須賀海軍法會議	館山海軍砲術學校
津海軍人事務部	吳鎮守府軍法會議	海軍水雷學校
大阪海軍人事務部	佐世保鎮守府軍法會議	海軍對潛學校
神戸海軍人事務部	舞鶴鎮守府軍法會議	海軍航海學校
岡山海軍人事務部	大湊警備府軍法會議	橫須賀海軍通信學校
高松海軍人事務部	大阪警備府軍法會議	防府海軍通信學校
高知海軍人事務部	橫須賀海軍刑務所	海軍潜水學校
福岡海軍人事務部	吳海軍刑務所	海軍工機學校
熊本海軍人事務部	佐世保海軍刑務所	橫須賀海軍工作學校
鹿兒島海軍人事務部	舞鶴海軍刑務所	沼津海軍工作學校
松江海軍人事務部	橫濱海軍武官	水軍氣象部
新潟海軍人事務部	門司海軍武官	海軍氣象部
金澤海軍人事務部	長崎海軍武官	海軍大臣官房及海軍省各局
山形海軍人事務部	函館海軍武官	海軍令部
橫須賀海軍經理部	壺關海軍武官	海軍監政本部
吳海軍經理部	神戸海軍武官	海軍監政本部(製圖工場ヲ除ク)

0672

0673

(航本機密第八四九二號別表)

(昭和十九年七月十日海軍公報(部内限))

發動機名稱	充當點火栓名稱		海軍航空本部
	磁器點火栓	固有點火栓	
初風一〇型	H6C型	Y6M型	日立多賀工場
天風一〇型	H3B型	チルコト1型	同
天風二〇、三〇型	H1D型	Y1M型	同
榮一〇、二〇、三〇型	Y1R型	YT11HB型	南越航空補機
金星四〇型	A1A型	アイチR T2型	愛知化學工業
金星五〇、六〇型	A1H型	A1A型	同
瑞星一〇型	A1P型	アイチR T2型	同
火星一〇型	A1P型	A1A型	同
火星二〇型	A1H型	A1A型	同
譽一〇型	N1G型	Y1H型	日本特殊陶業
譽二〇(NK9HB)型	Y1R型	Y1H型	南越航空補機
譽二〇(NK9H)型	O1B型	Y1H型	東亞航空電機
アツタニ〇型	N6G型	AGF型ニテモ可	日本特殊陶業
アツタ三〇型	N6K型	—	日本特殊陶業

0674

海軍公報

(部内限) 第四七三六號

海軍大臣官房

昭和十九年七月十一日(火)

○令 達

官房備第七三號ノ二

昭和十八年官房備第二四一號ニ依ル第三十八海軍軍用郵便所ハ
昭和十九年六月十一日ヨリ事務ヲ開始ス

昭和十九年七月十一日

海軍大臣

(参照) 昭和十八年九月二十九日本備

○通 牒

海人第三二九號

昭和十九年七月十日

海軍省入事局長
海軍省醫務局長

各鎮守府參謀長殿

結核性胸部疾患者服役免除ニ關スル件中進

首題ノ件概ネ左記ニ據リ取扱相成度

記

一 胸膜炎

(イ) 發病後經過觀察期間ヲ四ヶ月トス

海軍公報(部内限) 第四七三六號 昭和十九年七月十一日

(ロ) 前項ノ期間經過後次ノ各號ニ依リ判定シ尙長期療養ヲ要
スト認メラルル者ハ現役免除トス

尙滲出液ヲ證明スルモノ

尙發熱持續スルモノ

體重漸減シ衰弱顯明カナルモノ

尙赤血球沈降速度持續的ニ二〇耗以上ヲ示スモノ

胸膜肺膨高度ニシテ肺活量二〇〇耗以下ニ低下セル
モノ

(五)(四)(三)(二)(一)

腹膜炎ヲ併發セルモノ(輕症ヲ除ク)

(七)(六) 二ヶ月以内ニ修練療法開始ノ見込無キモノ

二 初期結核症

原則トシテ兵役免除或ハ現役免除ヲ爲サズ

三 肺浸潤

(ロ)(イ) 需診後經過觀察期間ヲ六ヶ月トス

前號ノ期間經過後左ノ各號ニ依リ判定シ尙活動性症狀ア
リト認メラルルモノハ現役免除トス

不規則ナル發熱アルモノ

體重漸減シ顯明カナルモノ

赤血球沈降速度尙連續促進セルモノ

肺活量漸減スルモノ

(五)(四)(三)(二)(一) エツクス線検査上尙活動性變化アリト認メラルルモノ

四 肺結核

(六) 二ヶ月以内ニ修練療法開始ノ見込ナキモノ

(イ) 診定後經過觀察期間ヲ三ヶ月間トス
前項ノ期間經過後輕症ニシテ約一ケ年以内ノ療養ニ依リ
限定勤務配置ニ就キ得ル見込アル者以外ハ原則トシテ兵役
免除トス

註

一 各症ニ於ケル經過觀察期間ハ一般標準ヲ示セルモノニシ
テ病狀ノ經過及兵種、特技章、經歷等ニ應ジ斟酌スルモノ
トス

二 初年兵期間中ニ發病セル胸膜炎(輕症型ヲ除ク)、肺浸潤
及肺結核ハ概テ現役免除又ハ兵役免除ト爲スヲ原則トス

海人三第二號ノ六七

昭和十九年七月十日

海軍省人事局長

關係各航空隊司令殿

海軍航空隊分遣隊職員ノ考課表調製ニ關スル
件申進

首題ノ件ニ關シテハ海軍考課表規則ノ規定ニ拘ラズ左記ニ依ル
コトニ定メラレ候

記

考課表調製官	被考課官	記	事
分遣隊長	士官、特務士官	海軍考課表規	
分遣隊長指定ノ士官	准士官	則中航隊ノ	
分隊	下士官、兵	部ノ記事ヲ準	
隊長		用ス	

艦本機密第三號ノ一一一九九

昭和十九年七月十日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

探照燈關係圖書ノ取扱ニ關スル件通知
首題ノ件左記ノ通知メラレ候條可然取計相成度

記

圖書區分	取扱標準	記	事
九六式探照燈組立圖	軍新	二五〇親、一〇〇親、九〇親	
竝同管制器	秘	但シ艦用一五〇親ヲ除ク	
結線圖	同		
商車機構圖	同		
取扱説明書	同		
試験成績表	同		

備考

0676

現使用中ノ右圖書中不用トナリ還納又ハ燒却等ノ處分ヲ爲
スベキモノハ差當リ從來ノ軍機秘ノ儘トシ將來引續キ使用
スベキモノノミ右新標準ニ依リ改訂スルモノトシ之方圖書
番號ハ從來ノ軍機秘番號其儘トシ通報等ノ場合ニハ元軍機
秘、、號トシテ處理スルモノトス

○雜一 款

○學生入校期

昭和十九年官房人機密第六九號ニ依ル本校第二十二期特修科學
生(機雷)ハ八月一日(火)始業ニ付其ノ前日迄ニ着校セシメ
ラレ度

昭和十九年官房人機密第三一三號ニ依ル本校第二十三期特修科
學生(艇長)ハ八月三日(木)始業ニ付其ノ前日迄ニ着校セシ
メラレ度

昭和十九年官房人機密第四一五號ニ依ル本校第二十四期特修科
學生(對潛)ハ八月三日(木)始業ニ付其ノ前日迄ニ着校セシ
メラレ度

(海軍對潛學校)

○廳舎移轉

大阪地方海軍人事部ハ七月一日左ニ移轉セリ

大阪市北區玉江町二丁目三番地(市電堂島大橋停留所南詰)

電話土佐堀(三三〇〇一)番
(三三〇〇二)番

○事務開始

當部横濱支部ヲ六月十一日横須賀鎮守府横濱綜合事務所(假稱)
(横濱市中區海岸通二丁目二番地横濱海運局廳舎内)ニ移轉シ事
務ヲ開始セリ

電話 海軍電話 横濱中繼 二二二、二二二、一三五番
綜合事務所構内ノ自二二番 至二六番
市内電話 横濱本局 一二二五番

當部日向事務所ヲ開設シ海上荷役ニ關スル各廳トノ連絡事務ヲ
開始セリ

場所 神奈川縣横須賀市浦郷町日向

横須賀海軍運輸部日向事務所

電話 海軍電話 横濱中繼 一三〇番
横須賀海軍施設部
日向工事事務所 交換二三番
市内電話 田浦局 二二三番
(横須賀海軍運輸部)

○事務所撤去

第一三二號特設輸送艦裝員事務所ハ六月二十八日之ヲ撤去セ

第三號輸送艦裝員事務所ハ六月二十九日之ヲ撤去セリ

○休職満期

休職海軍技手倉橋定次郎ハ七月五日休職満期トナレリ

0677

海軍公報（部内限）第四七三六號 昭和十九年七月十一日

九五二

○失官

○訂正

三月三十一日附海軍公報（部内限）第四千六百五十四號中昭和十九年三月二十五日山口正ノ教員任用日附ハ三月二十九日ノ誤ナリ

○本日普通公報發行セズ

0678